

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	応用物理 I
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建設システム工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	物理基礎, 物理 (数研) / リードLightノート物理基礎, 物理 II (数研), フォトサイエンス物理図録 (数研)				
担当教員	宮野 敏男				
到達目標					
①誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。 ②磁性体と磁化, 及び, 磁束密度を説明できる。 ③静電エネルギーを説明できる ④ジュール熱や電力を求めることができる。 ⑤キルヒホッフの法則を説明し, 直流回路の計算に用いることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。	誘電体と分極, 及び, 電束密度を理解できる。	誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できない。		
評価項目2	磁性体と磁化, 及び, 磁束密度を説明できる。	磁性体と磁化, 及び, 磁束密度を理解できる。	磁性体と磁化, 及び, 磁束密度を説明できない。		
評価項目3	静電エネルギーを説明できる	静電エネルギーを理解できる	静電エネルギーを説明できない		
評価項目4	ジュール熱や電力を求めることができる。	ジュール熱や電力を理解できる。	ジュール熱や電力を求めることができない。		
評価項目5	キルヒホッフの法則を説明し, 直流回路の計算に用いることができる。	キルヒホッフの法則, 直流回路が理解できる。	キルヒホッフの法則を説明し, 直流回路の計算に用いることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
(A)					
教育方法等					
概要	【学習・教育到達目標】 (A) 自然科学と工学の基礎を身につける。 力の場とエネルギー, 静電気と電流を学習する。				
授業の進め方・方法	物理学は物理現象の単純化, 数式化, 一般化によって自然を理解しようとする学問である。1, 2年で学習した内容について学生に質問し, 基本事項の復習と整理を行う。学習した基本事項を身近な物理現象に適用する考え方や方法を習得することができるように, 講義, 問題演習を適切に組み合わせながら授業を進める。 1. 講義の内容は必ずノートにとる。 2. 復習し, 課題は必ず解く。 3. 学習した内容は教科書, ノートで確認し, 理解を深める。				
注意点	連絡先: 研究室 A棟2階 (A-210) 内線電話 8917 e-mail: miyano@maizuru-ct.ac.jp 評価方法: 定期試験を中間・期末の2回実施し, 定期試験評価(70%)とする。小テスト, レポートを自己学習評価(30%)とする。これらの評価を総合的に勘案して, 成績評価とする。 評価基準: 到達目標に基づき, 物到達目標に基づき, 静電気と電流の理解についての到達度を評価基準とする。 その他: 授業には, 三角定規, 分度器, コンパス, 電卓を持参すること。 中間・期末2回の試験時間は50分とする。持ち込みは電卓を可とする				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 質量, 電気, 磁気とは何か	①誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。	
		2週	質量, 電荷, 磁極に作用する力	①誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。	
		3週	万有引力の場, 電場, 磁場	①誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。	
		4週	例題と演習問題	①誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。	
		5週	万有引力の位置エネルギー, 電位	①誘電体と分極, 及び, 電束密度を説明できる。	
		6週	物質の電氣的・磁氣的性質	②磁性体と磁化, 及び, 磁束密度を理解できる。	
		7週	例題と演習問題	②磁性体と磁化, 及び, 磁束密度を理解できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	コンデンサー	③静電エネルギーを説明できる	
		10週	例題と演習問題	③静電エネルギーを説明できる	
		11週	一樣な電場内の荷電粒子の運動	③静電エネルギーを説明できる	
		12週	電流とは何か	④ジュール熱や電力を求めることができる。	
		13週	オームの法則	④ジュール熱や電力を求めることができる。	
		14週	直流回路	⑤キルヒホッフの法則を説明し, 直流回路の計算に用いることができる。	
		15週	例題と演習問題	⑤キルヒホッフの法則を説明し, 直流回路の計算に用いることができる。	
		16週	前期末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	自然科学	物理	力学	万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
			電気	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	2	
				クーロンの法則を説明し、点電荷の間にはたらく静電気を求めることができる。	2	
				オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。	2	
				抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。	2	
ジュール熱や電力を求めることができる。	2					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0